

地域おこし協力隊の活動日記

飛騨市内で活動している地域おこし協力隊員
市内に存在するさまざまな地域資源を活用し、地域の特色を活かした産業の創出を図ります



地域おこし協力隊の活動内容紹介
〜山之村での生活〜

隊員 前原 融

飛騨市の皆様、こんにちは！

山之村の夏のすこしやすさにびっく
りしております、地域おこし協力隊の
前原です。

前回の記事ではわらび粉についてのお話をさせて頂きましたが、今回は、地域おこし協力隊に任命された5月から8月までの活動内容と山之村での生活について紹介しようと思えます。

前回の記事で「わらび粉生産が可能な季節は限られている」と書かせて頂きました。

実はわらび粉は秋（と春）しか生産できません。この説明では、「そんな作物でビジネスとして成立するのか？」と疑問をお持ちの方も多いと思います。私的な見解ですが、『わらび粉生産だけで一年間に必要な所得を稼ぐこと』は現段階では不可能だと考えています。しかし、『わらび粉生産を主軸として、わらび粉生産が出来ない時期は地域の人手が足りていない産業で働きながら生活を組み立てていくこと』はできるのではないかと感じています。

現在、山之村ではホウレンソウ、トウモロコシ、トマト等を代表とする農業や、山之村牧場、山之村キャンプ場などの観光業が主な産業として挙げられますが、どこも人手が足りているとは言えない状態であると感じました。実際、5月からこの原稿を書いている8月まで様々な方に声をかけて頂き、忙しく充実した毎日を送らせて頂いております。

例えば、ホウレンソウの朝刈り（清水農園さん）、ホウレンソウの出荷作業（なかだファームさん、清水農園さん）

トウモロコシ・トマトの苗植作業・トウモロコシの収穫・出荷準備作業（石橋自然農園さん）、また、山之村牧場で長期休暇期間に行う野外イベントやレストランの補助などもやらせて頂きました。

ホウレンソウの朝刈りは朝五時半から始まります。手伝い始めた頃は、朝起きるのはしんどかったですが、今では目覚ましのアラームが鳴る前に起きられるようになりました。また、ホウレンソウの出荷作業のお手伝いでは、パートの皆さんと楽しく会話をしながら仕事をさせてもらっています。会話の中で飛騨弁が出てくると、そのまま飛騨弁講座が始まったり、山之村の行事の事などを教えて頂いたり、ただ働くだけでなく、様々な話が聞ける貴重な機会でもあり感じています。

いよいよ10月からはわらび粉の作業が始まります。体調に気をつけながらがんばります！



◀ホウレンソウの出荷作業の様子